



NIHS特別講演会 (殿町#21)

演 題

腸内細菌叢制御のための経口IgA抗体医薬の開発



講 師

新藏 礼子 先生

東京大学定量生命科学研究所 免疫・感染制御研究分野

要 旨

腸内細菌叢の異常(dysbiosis)が炎症性腸疾患だけではなく多くの疾患の発症に関連すると報告されており、腸内細菌叢を改善することは健康維持に重要であると考えられる。腸内細菌叢改善を目的として細菌製剤投与や便移植などが行われており一定の効果があると報告されている。宿主は腸管に分泌されるIgA抗体によって腸内細菌を認識し制御していることがわかってきた。私たちは腸内細菌叢制御のために腸管IgA抗体の利用を目指している。本講演では一例として大腸菌など腸炎惹起菌の増殖を抑制するIgA抗体について紹介する。このIgA抗体は多くの細菌が持つ代謝酵素の特定のアミノ酸配列を認識して結合することで細菌を識別する。腸炎モデルマウスへ抗体の経口投与を行ったところ、このIgA抗体は良い菌の増殖を妨げないため、全体として良い菌が優位になる方向に腸内細菌叢が変化する効果が見られ、その結果腸炎が抑制された。ヒトの経口投与製剤としてのIgA抗体の将来性について議論する。

ご 略 歴

1986年 京都大学医学部卒業
1986-1992年 京大病院、大阪赤十字病院、小倉記念病院で麻酔科医として勤務
1997年 京都大学博士(医学)取得
1997-1999年 京都大学医学研究科研修員
1999-2002年 ハーバード大学子供病院に留学
2003-2010年 京都大学医学研究科免疫ゲノム医学助手、講師、准教授
2010-2016年 長浜バイオ大学バイオサイエンス学科教授
2016-2017年 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス学科教授
2017-現在 現職

日 時

2021年12月2日 (木)

14:00~15:30 Web開催

【参加申し込み】 <https://ssl.form-mailer.jp/fms/15abe0f4723652> にてご登録をお願いします。(締め切り11月29日)
11月30日に、聴講用WebExのご案内をお送りします。
届かない場合は、下記までお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ先】 国立医薬品食品衛生研究所 生物薬品部 石井明子
電話：044-270-6512 メール：watabe@nihs.go.jp